

12月に向けて

代表取締役 三田雅憲

寒さが日々厳しくなっておりますが、社員諸君は身体に十分気を付けて下さい。

11月25日には、北大阪商工会議所主催の「企業が語る！女性社員活躍の成功事例とライフイベント対応の秘訣」というセミナーに、当社も参加して参りました。これは、当社が女性活躍を今後、より磨きをかけていって下さい、という意味でのスタートであったと考えております。そこで、今月はフォーブスジャパンの調査で「本当に女性が活躍している会社ランキング」で総合1位となりました、「資生堂」さんについて考察したいと思います。

同社は、ダイバーシティ(多様性)が圧倒的に進んでおり、どの階層でも女性比率が高く、トップマネジメント層は、社内でキャリアを磨き上げてきた専門性の高い女性がキーポジションを担っています。資生堂会長の魚谷氏が、女性活躍を推進する企業トップの集う団体「30%Club Japan」の代表を務めるなど、日本のジェンダー・ギャップ解消(男女間の不均衡)に向けた取り組みをリードする存在です。その資生堂は、会社のWEBサイトのコミットメント(公約)のトップに「ジェンダー平等(男女平等)」を掲げておられます。そこには次のように書かれています。

「1934年に資生堂は「女性は職業に就かない」という当時の価値観に挑み、「(女性は)仕事を持つ」という新しい選択肢を提案し、現在のビューティーコンサルタントの前身となる専門職を確立しました。2000年頃には、ほぼ100%の女性社員が育児休業から復職するに至るなど、国内において先進的な取り組みを推進してきました。これまで女性の自己実現に尽力してきた経験や知見を発展させ、一人一人が自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現に、貢献していきます。」

とされています。当社も、2025年には厚生労働省の「女性えるぼし認定」企業を目指し、公的にも女性活躍を認めてもらい、女性社員自身が本当にそう思ってもらえている企業を目指して、少しずつですが取り組みを進めていきたいと考えております。今は、現場技術職に2名、営業技術職に1名、総務職に3名、光栄の森さんに4名の合計10名の女性の方が、当社を支えて頂いております。今後は、その母数を少しずつですが増やしていくことと、その中から管理職や準管理職といった、リーダー級の方々が育ってきてもらいたく思います。先ほどの資生堂さんでは、女性リーダー育成塾を開催されており、この育成塾は幹部候補の女性社員がマネジメント(会社が求める成果や目標に向かって、組織を動かすこと。又、お金や人といった経営資源を管理すること。)のスキルを学びながら、自分らしいリーダーシップを身に付けるプログラムだそうです。当社もこのような育成塾をいつか開催できればと考えています。又、男性社員におかれても女性の特性を尊重、理解した上で気持ちよく、一緒に仕事ができるような環境づくりを行ってほしいと思います。今後は女性の育児や介護に向けた育児休暇制度や育児による、期間を決めた短時間勤務制度の整備なども進めていきたいと考えております。そして、この取り組みが会社全体の強い力として、良い波及効果をもたらしてくれればより強い会社になっていくと考えております。今後ともこれら新しい取り組みに対して、社員諸君のご協力をよろしくお願いいたします。